

いのちの言の葉2013

富山県教育委員会平成25年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの授業」

氷見市立久目小学校

平成25年10月2日実施

【授業の概要】

- 1, 自分を支えてくれた人との出会い
- 2, 介護福祉士を目指すことになったきっかけ
- 3, 介護福祉士として死と向き合うこと
- 4, いのちの大切さ

【いのちの先生】

中山 美樹代先生

・介護福祉士

(父母より)

〇〇は予定日より1週間遅く生まれました。きっと、お父さんのインフルエンザが治るのを待っててくれたんですね。無事に生まれてきたときは、とてもうれしくて「生まれてきてくれてありがとう」と思いました。〇〇はマイペースだけど、いっしょうけんめいがんばっています。そんな〇〇が大好き♡です。

(お父さん、お母さんへ 3年生児童)

わたしは、お父さんやお母さんから大すきと書いてあってなみだが出てきました。わたしも家族のことが大すきです。わたしは、なきむしだけど、今からべんきょうしてお母さんみたいになりたいです。大すき。



(お母さんへ 6年生児童)

手紙だからこそ、言えることです。いつも、本当にありがとう！そして、産んでくれてありがとう。こんなお母さんあつての命だと改めて感じましたし、お母さんの手紙を読んで、これからも自分の命を大切にしていこうと思いました。そして、友だちの命や心も大切に、いろいろ助けてあげたいです。これから、自分の将来に向かって、絶対にあきらめずに頑張ろうと思います。だから、これからも応援していてね。そのために、ちゃんとすなおに言うことを聞くことから始めようと思います。これからも、よろしく。

(ママより)

2年くらい前だったかな？命を大切にする授業で、このようなお手紙を書いたけど、〇〇は覚えてる？もう一度、読み返してくれたらうれしいな。11年前のことを今でもはっきり覚えているよ。とにかく、健康でよい子に育ててほしいと願うのは、親ならば誰でも思います。ところが、いじめで大切な命を自ら落とす人もいるのを、ニュースとかで知っているよね。本人やその人の親の気持ちを思うと、本当につらくなります。だから、〇〇には相手の心の痛みがわかる人になってほしいと思います。困っている人がいたら手伝ってあげたり、助けてあげたりしてほしい。相手の喜びを自分のことのように喜び、相手の苦しみやつらさを自分のことのように感じる人になってほしい。そして、人には優しく、誰からもかわいがられ好かれる人間になってほしいと願っています。